

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和3年2月12日(2021.2.12)

【公開番号】特開2019-218552(P2019-218552A)

【公開日】令和1年12月26日(2019.12.26)

【年通号数】公開・登録公報2019-052

【出願番号】特願2019-143252(P2019-143252)

【国際特許分類】

C 09 K 3/00 (2006.01)

【F I】

C 09 K 3/00 F

【誤訳訂正書】

【提出日】令和2年12月8日(2020.12.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 結合剤成分；および

(b) 前記結合剤成分中に分散した揮発性成分

を含み、

前記揮発性成分は、分子包接剤を含まず、

前記揮発性成分が、40から300の間の沸点を有し、

前記揮発性成分が、室温で、30%相対湿度未満では実質的に放出されないが、60%から100%の間の相対湿度では放出され、

前記揮発性成分が、抗菌化合物を含み、

前記結合剤成分がポリビニルアルコールを含む、コーティングまたはフィルムの形態の湿度活性化材料。

【請求項2】

前記結合剤成分が、セルロース、デンプン、ガム、およびポリエチレングリコールを含まない、請求項1に記載の材料。

【請求項3】

前記揮発性成分が、揮発油を含む、請求項1に記載の材料。

【請求項4】

前記揮発性成分が、室温で、60%相対湿度で放出される、請求項1に記載の材料。

【請求項5】

前記揮発性成分が、室温で、30%相対湿度未満では実質的に放出されないが、75%から100%の間の相対湿度では放出される、請求項1に記載の材料。

【請求項6】

前記揮発性成分が、100から300の間の沸点を有する、請求項1に記載の材料。

【請求項7】

前記揮発性成分がグアヤコールを含む、請求項1に記載の材料。

【請求項8】

前記揮発性成分が、ノコギリソウ属(Achillea spp.)、アモムム属(Amomum spp.)、アステラセアエ属(Asteraceae spp.)、ルリヂシャ属(Borago spp.)、アブラナ属(Br)

assica spp.)、ブルネシア属(Bulnesia spp.)、トウ属(Calamus spp.)、ツバキ属(Camellia spp.)、イランイランノキ属(Cananga spp.)、トウガラシ属(Capsicum spp.)、カワラケツメイ属(Cassia spp.)、ヒマラヤスギ属(Cedrus spp.)、ヒノキ属(Chamaecyparis spp.)、オキナワミチシバ属(Chrysopogon spp.)、クスノキ属(Cinnamomum spp.)、ミカン属(Citrus spp.)、コエンドロ属(Coriandrum spp.)、イトスギ属(Cupressus spp.)、ウコン属(Curcuma spp.)、オガルカヤ属(Cymbopogon spp.)、ナデシコ属(Dianthus spp.)、フタバガキ属(Dipterocarpus spp.)、エレッタリア属(Elettaria spp.)、ユーカリノキ属(Eucalyptus spp.)、フォルニカラム属(Forniculum spp.)、シラタマノキ属(Gaultheria spp.)、フウロソウ属(Geranium spp.)、ダイズ属(Glycine spp.)、ワタ属(Gossypium spp.)、アヤメ属(Iris spp.)、ジャスマニア属(Jasminear spp.)、ビャクシン属(Juniperus spp.)、ラバンジュラ属(Lavandula spp.)、アマ属(Linum spp.)、イワダレソウ属(Lippia spp.)、ハマビワ属(Litsea spp.)、コバノプラシノキ属(Melaleuca spp.)、ハッカ属(Mentha spp.)、ミリストイカ属(Myristica spp.)、メボウキ属(Ocimum spp.)、オーノテラ属(Ornothera spp.)、ハナハッカ属(Origanum spp.)、ピメンタ属(Pimenta spp.)、ミツバグサ属(Pimpinella spp.)、マツ属(Pinus spp.)、コショウ属(Piper spp.)、ポゴステモン属(Pogostemon spp.)、トウゴマ属(Ricinus spp.)、バラ属(Rosa spp.)、マンネンロウ属(Rosmarinus spp.)、アオギリ属(Salvia spp.)、ビャクダン属(Santalum spp.)、サッサファラス属(Sassafras spp.)、ライムギ属(Secale spp.)、ゴマ属(Sesamum spp.)、シモンドシア属(Simmondsia spp.)、ハシドイ属(Syringa spp.)、フトモモ属(Syzygium spp.)、クロベ属(Thuja spp.)、イブキジャコウソウ属(Thymus spp.)、トリゴネラ属(Trigonella spp.)、バニラ属(Vanilla spp.)、トウモロコシ属(Zea spp.)ショウガ属(Zingiber spp.)、およびそれらの組合せからなる群からの選択された生物からの抽出物を含む揮発油を含む、請求項1に記載の材料。

【請求項9】

(a) 結合剤成分の水溶液または分散液中に前記揮発性成分を分散することにより混合物を生成すること；

(b) 包装材上に前記混合物をキャスティングすること；および

(c) 前記混合物を凝固させて、前記包装材上にコーティングを形成することを含み、前記混合物が $500\text{ mPa}\cdot\text{s}$ 超(せん断速度 0.01 sec^{-1})の粘度を有し、前記凝固させるステップが、気体の流れで乾燥させることを含む、請求項1～8のいずれか一項に記載の材料を調製する方法。

【請求項10】

(a) 結合剤成分の水溶液または分散液中に前記揮発性成分を分散することにより混合物を生成すること；

(b) 固体基体上に前記混合物をキャスティングすること；および

(c) 前記混合物を凝固させて、前記固体基体上にコーティングを形成することを含み、前記混合物が $500\text{ mPa}\cdot\text{s}$ 超(せん断速度 0.01 sec^{-1})の粘度を有し、前記凝固させるステップが、気体の流れで乾燥させることを含む、請求項1～8のいずれか一項に記載の材料を調製する方法。

【請求項11】

前記気体の流れが、20から120の間の温度で適用される、請求項9または10に記載の方法。

【請求項12】

(a) 結合剤成分の水溶液または分散液中に前記揮発性成分を分散すること；

(b) 固体基体上に前記混合物をキャスティングすること；

(c) 前記混合物を凝固させて、前記固体基体上にコーティングを形成すること；および

(d) 前記コーティングを前記固体基体から剥がして、フィルムまたはシートを生成す

ること

を含み、

前記混合物が 500 mPa・s 超 (せん断速度 0.01 sec^{-1}) の粘度を有し、

前記凝固させるステップが、気体の流れで乾燥させることを含む、

請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の材料を調製する方法。

【請求項 13】

前記混合物が 500 から 50,000 mPa・s (せん断速度 0.01 sec^{-1}) の間の粘度を有する、請求項 9、10 または 12 に記載の方法。

【請求項 14】

包装材上のコーティングの形態である、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の材料。

【請求項 15】

包装材の中、上、真下、または近くに挿入されるシートの形態である、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の材料。

【請求項 16】

包装材に接着させるラベルの形態である、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の材料。

【請求項 17】

(a) 包装内に生鮮食品を挿入すること；

(b) 前記包装の中、上、真下、または近くに、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の材料からなるコーティングを有する基体、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の材料からなるフィルムもしくはシート、もしくは請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の材料の層を有するラベルを挿入すること；および

(c) 前記包装を密封または封入し、これにより、前記挿入された材料が、前記生鮮食品により生み出される高い相対湿度に曝露されること、
を含む、方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0075

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0075】

好適な結合剤は、水溶性または水分散性の結合剤を含み、例えば、完全にまたは部分的に加水分解されたポリ酢酸ビニルであるポリビニルアルコール (PVOH)、ポリビニルピロリドン、ポリビニルピリジン、ポリビニルイミダゾール、ポリビニルカプロラクタム、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、メトキシ官能基またはヒドロキシエチルもしくはヒドロキシプロピル官能基を含むセルロースなどの官能基化セルロース、ポリヒドロキシエチル (メタ) クリレート、ポリエチレンイミン、ポリエチレン - co - アクリル酸もしくはその塩、ポリ (メタ) クリル酸もしくはその塩、ポリスチレンスルホン酸もしくはその塩、ポリエチレン - co - ビニルアルコール (EVOH)、または例えばアカシアガムのガムがある。これらのポリマーと他のモノマーユニットとのコポリマーも同様に、好適な結合剤であり得る。